2024年10月12日・13日　第26回福島ダイアログ
主催：NPO福島ダイアログ

福島第一原発の廃炉と廃棄物と地域の未来

報告者　ウィン・トゥ・ザール　による要約

NPO 福島ダイアログ

info@fukushima-dialogue.jp

https://fukushima-dialogue.jp

https://fukushima-dialogue.jp/en/

議論のテーマ
「福島第一の廃炉と廃棄物の、地域との関係における現在の課題はなんだと思いますか。今後どのような経過になるでしょうか。」

参加者

- 池上三六（原子力損害賠償廃炉支援機構）
- 今泉友里（桜美林大学教育探究科学群 学生
- 梅原昭子（aruto702 地域伴走型アーティスト）
- 遠藤佳南子（富岡町民）
- 遠藤暸（東北大学工学研究科　修士生）
- 門馬好春（30年中間貯蔵施設地権者会）
- Cheng Di（早稲田大学大学院　修士生）
- 辺見珠美（富岡町議
- Fabien Hubert (フランス放射性廃棄物管理機関) オンライン
- 保高徹生（産総研）
- 松枝智之（ふたば行政書士事務所）

＋

6
オブザーバー

1.　信頼とコミュニケーション

- 廃炉の担当者と地域住民の関係において、**信頼関係は非常に重要な課題である**。本ダイアログでは、地域社会がより積極的に参加し、地域住民が懸念を表明する機会を設けることの重要性が強調された。

- 地域社会とのコミュニケーションでは、わかりやすく、明快でシンプルな言葉が重要である。これは、コミュニケーションを向上させ、信頼を築くのに役立つ。技術的な内容を、アートなど、他の共有形式と組み合わせることで、より効果的なコミュニケーションが可能になるかもしれない。

2.コミュニティの参加と透明性

- 意思決定のプロセスは、地域社会がよりよく参加することによって、改善されうる。 とりわけ、廃炉と廃棄物管理に関連する問題においては、そうである。地域とその歴史をよく知っている人々の参加は、前に進んでいくために、極めて重要である。

- 特に最終処分場や廃棄物量に関しては、情報共有の**透明性は**、地域社会と政府当局との**信頼関係の醸成に**役立つ。

3.廃炉の課題

- **廃炉は**何十年も**かかる長期的なプロセスである**。福島第一原子力発電所の廃炉だけでなく、高レベル・低レベル廃棄物の将来についても明確な決定がなされていないことは大きな課題である。また、どれだけの廃棄物が発生し、どこに保管されるのかについての情報が不足していることも、事態の複雑さに拍車をかけている。

- 除染や廃炉に関する**意思決定プロセスにおいて**、女性や若い世代の意見が反映されていないとの指摘があった。公正で包括的な結論を確保するためには、意思決定においてより多様な視点が必要である。

4.社会的・心理的障壁

- 放射線の状況は改善が図られているが、**多くの住民はいまだ自宅に戻っていない**。

- 廃棄物管理や廃炉プロセスへの**懸念**、学校や病院といった重要な**インフラの不足も**、世帯の帰還を阻む要因である。

- 感情的、社会的な懸念に対処することは、信頼を再構築し、社会的合意を形成するために不可欠である。

5.技術と戦略の進歩

- **除染土のリサイクルと減容化の**進展は、新たな課題と懸念を浮上させている。飯舘村で行われたような実証プロジェクトは、賛否両論の課題を提起した。つまり、**安全かつ管理された方法で除染土壌をリサイクル**する計画は、当局にとっては今後の重要な重点分野であるが、ほとんどの場合、除染土壌を地域社会で再利用することについてのコンセンサスは得られていない。

6.長期的ビジョンと将来世代の保護

- **将来の世代のために、**廃棄物管理の負担を**軽減する**ことは優先事項である。安全な管理方法が次世代に確実に引き継がれるような戦略を立てるべきである。

- 廃炉・廃棄物処理プロセスや廃棄物管理における安全と円滑な連携を確保するため、廃炉の将来像とともに、さまざまな**専門家、当局、地域社会の役割を明確に**する必要がある。

7.社会的対話の重要性

- 最終処分場やその他の再利用の取り組みに対しての社会的対話の構築は、依然として深刻な課題である。安全性に関する決定がどのように決定され、共有されるかにおいて、公平性が確保されることは、地域社会からの長期的な信頼を確保する上で、非常に重要である。

- 人々、 とりわけ、自分の懸念や確固たる信念を表明するために人前で話すことに慣れていない人々が、 福島の未来に関連する対話に、より効果的に寄与できるような仕組みを開発することが重要である。

オブザーバーのコメント

- **地域社会からの信頼を得ること**
- **過去の失敗と情報不足を克服すること**
- **不確実性を認識して伝えること**
- 事故、廃炉、廃棄物管理に起因する**不安やメンタルヘルスの懸念へ対応すること**
- **環境を保護すること**
- **戦略の最適化**
- **長期的な影響：**東京電力福島第一原発事故による放射性物質は環境中に残り、地元とより広い地域の双方に影響を与える
- **政府への不信感**：環境省の除染土壌再利用に関する対応で基準を大幅に引き上げたことや、洪水のリスクなどさまざまな問題に対して、立法ではなく省令によって進めるなどの事故後の対応については、大きな不信感がある。
- **土壌再利用への反対**：除染土壌の再利用事業を通じて放射能が拡散することへの強い懸念がある。
- **世界的な監視の必要性**：国際機関（IAEAなど）がこれらのプロジェクトを承認することで、同様の実践が他国に広がる懸念が生じる。国際的な注意を高めることが強く求められている。
- **福島で何が起きたかの記憶をどう残すか？**
- **前進すること**：コミュニケーションと対話はどのように行われるべきか？廃棄物はどのように処理すべきか？どのようなアプローチを取るべきか？
- **対話の重要性を認識すること**
- **信頼できる情報へのアクセスを確保すること**：政府が提供する情報が正確かどうかを判断するための信頼できる参考資料が必要であることが、これまでも継続して強く求められてきている。

この図は、ダイアログの中で最も多く使用された単語をあらわしたもので、大きいサイズの単語ほど多く使われた。この図は、廃炉と廃棄物管理の長期的なプロセスが、意思決定プロセスや当局や専門家とのコミュニケーションにおける信頼の重要な役割とともに、地域社会に多くの懸念を引き起こしている事実を強調している。

参加者の発言からの引用：

- 何が重要かそうでないか、私にはなにもすることができないし、この問題に興味がない
- その人その人の人生への尊敬がないと信頼が生まれない、という気持ちで地域と向き合いたい
- 廃炉作業に誇りが持てるようにならなくてはいけない
- 過去のミスを踏まえて、フランスではダイアログが形成された。不確実性があるということも明らかにしている
- 廃炉のような長期の取り組みは「人」がつなぐしかない

活動へのご支援お願いします
https://fukushima-dialogue.jp/membership-donation

本要約は、ダイアログ開催中に報告者が作成した内容を事務局で確認し、会の終了後、全参加者に送付し、承認を得たものです。

連絡先 *NPO*福島ダイアログ
*E*メール：*info@fukushima-dialogue.jp*